

目を楽しませています。 オブジェ。皆さんの 玄関ロビーの手作り



平成25年5月発行 社会福祉法人 佐世保白寿会 介護老人保健施設

さざ・煌きの里

長崎県北松浦郡佐々町八口免805-

Tel 0956—**41—1122**

お問い合わせ・ご相談・見学、お気軽にどうぞ

http://www. kiramekinosato. com/

紙面の写真・氏名についてはご本人の同意を得て掲載しています。

キラメキの

リハビリテーション

介護保険の要介護認定を 受けた方が送迎バス等で 自宅からキラメキに通い、リハビリの専

門職である理学療法士(PT)、作業療法 士(OT)、言語聴覚士(ST)の指導の 下、機能回復訓練を行います。また、食 事、入浴など生活援助を受けることで在 宅生活を長く続けて頂くことを目的とし ています。ご家族の負担軽減にもつな がっています。

利用の目的を 教えてください

いよいよ

リハビリ **ル** 58人 入 浴 41人 <mark>交流の場 40人</mark>

食 事 29人 レクリエーション 24人 行 事 14人 手作業 11人 趣味活動 11人 その他 2人

(複数回答可)







通所リハビリテーション風景

通所の玄関風景。 車椅子用リフトバスが出番を待つ。

浴室。採光良く坪庭を眺めながらゆっくり入って頂きない方も安心して入れます。 キラメキューなった。

キラメキでは安全を 第一と考えプロが送 属ドライバーが送を パスのハンドルを使 がます。神名ラウば 運転前にさされの時間。



て陽光発電 佐々町が誘致

事始ま



600世帯一年分の消費電力量を見込む メガソーラー発電所の工事が手前の空 き地で始まりました。工事車両の出入 りがありますので十分ご注意ください。



キラメキのお隣の虹の里さん

写真はイメージです

完成予定

完成予想図



1階館下にテーブルをご用意いたしました。心ばかりの花を添えて・・面談、会談、商談、恋の語らいなど用途はいろいろ。となた様もご自由にご利用ください。

テーブル中央の白のレースは職員の お母様の手作り。有難いの一言です。 突如玄関ロビーに現れた見事な竹と花のオブシェ。 職員の渾身の手作りです。 お客様から「いつも来る のが楽しみです」と言っていただくように「おもて なし」の気持ちを季節の花や飾りで表し、お迎えし ています。

くいる。。 今回は東京の高島屋で開催された華道の草月流のイベントで飾られていたものをイメージして作りま

竹は花の協演

した。竹を裂いて曲線を作りハナミズキなど花たちを大胆に竹筒に差しています。ご家族や職員が持ち寄った花や施設の近くで採った草花で、お金をかけず人の心を潤すオブジェに皆さん感心しきり。

す人の心を潤すオブジェに皆さん感心しきり。 これからもおもてなしの心を大切に「行くのが楽 しみな施設」を目指していきます。

リハビリのチカラと 自分のチカラ

喫茶室にやって来たA男さんを見たボランティアの皆さんから観声と拍手!照れながらも嬉しそうな笑顔で応えるA男さん。A男さんは若い年齢にも関わらず、疾患により車椅子生活を強いられていた。歩く姿はリハビリ訓練として誰かのそばで見守られながらの印象しかない。それは一人で歩いて忘かった。とれがコッコッとリハビリを重ねたお蔭でとうとう車椅子を

手放し「杖歩行」となったのだ。 これまでの車椅子高さの目線 だったA男さんが、自分たちと同じ目線になった ことへの驚きと喜びがボランティアさんの歓声と 拍手を生んだのだろう。

今日もリハビリで再獲得した「歩行」でA男さんは闊歩している。

東日本大震災復興支援お買いエクトプロジェクト

白十字会グループでは、東日本大震災の被災地での復興ポランティアツアーに引き続き、今度は「被災地商品購入」という形で復興のお手伝いをしようと企画。被災地の海産物などをグループ内の病院、施設等の職員が購入いたしました。

今回の売り上げ総額は751,630円。当施設は51,300円のお買い物をしました。 今回は第1弾ということで、これから も職員からの要望も強いこともあり、引き続き第2弾が予定されています。

第2年がりたされていなり。 復興は始まったばかり。同じ日本 人として他人事でなく「自分で できること」で支援できたら いいなと思います。 今回窓口として受注から発送 までご協力頂いた南三陸町の 及川様からのお礼文です。

この度はたくさん多くのご注 文、お心遣いいただき有難うご ざいました。私共も皆様からの 励ましを糧に復興に向けて頑張 って参りたいと思います。

阪神淡路大震災では18年かかったと申してましたが、我々の場合はもっとかかる事は間違いありません。焦らずコツコツと前へ進んで参ります。皆様からのご恩は一生忘れません。

